

# 遊ぶ、学ぶ、 サステナブル。

自然の中で遊び、学び、

人の暮らしと自然の営みが共存する感覚を味わうことができる

複合体験施設が増えてきています。

今号では、環境教育の視点も大切にしつつ、

エンターテイメントやアートの要素も取り入れた

間口の広い活動に取り組んでいる施設を紹介します。

家族や友人と遊びながら

地球の未来について考える。

そんな休日はいかがでしょう。



## 「混ぜる」「揺さぶる」「背中を見せる」

## がキーワード

～これからの環境教育のあり方を考える～



萩原・ナバ・裕作 (はぎわら なば ゆうさく)

岐阜県立森林文化アカデミー教授。「野外自主保育 森の  
だんごむし」(2008)、「冒険遊び場 みのプレーパーク」  
(2011)、「morinoco ナイフ」(2017)、「森林総合教育セ  
ンター morinos」(2020)の言い出しっぺ。2021年  
JOLA 大賞受賞。



## 環境教育このままでいいの？

地球温暖化やSDGsなど、見えな  
い概念や知識を子どもたちに伝えるこ  
とが本当に持続可能な社会づくりにつ  
ながるのでしょうか？

今までの日本の環境教育は効果が  
あつたのでしょうか？

社会や人々の行動は、良い方向に変  
化したのでしょうか？

私ナバが環境教育について最近思うこ  
とを、気ままに書いてみました。

## 子どもは「たね」!?

岐阜県立森林文化アカデミーで教員  
を始めて15年、生きた学びの場を創ろ  
うと学内で森のようちえんやプレーパ  
ークを実践してきました。日々、森の中  
で成長する子どもたちの姿を見ている  
うちに、あることに気づいたのです。  
森のようちえんやプレーパークには、  
遊具はありません。あるのは空間と、  
道具と仲間たち。そんな中、子どもた  
ちは、あそびを創り出し、道具も見よ  
う見まねで使いこなし、日々起る問

題も自分たちで解決します。もちろん  
途中で何度も失敗し、痛い目にも会い  
ます。でもこうして、手探りで何かを  
獲得すること、何かを創り出すことこ  
そが、本来の「学び」であり「生きる  
こと」であると感じました。

そうなんです。子どもたちには「学  
ぶ力」「生きる力」が生まれながらに  
て備わっています。それはまるで植物の  
「たね」そのもの。条件が揃えば誰か  
らも教わることなく自らの力で芽を出  
しぐんぐん育ち、それぞれのペースで花  
を咲かせ、やがて実を結びます。だから、  
私たちが教えられることなんてほとん  
どないんです。

## これからの環境教育のあり方？

じゃあ私たち大人は、一体何をしたら  
いいんでしょう。確かなのは「これ以上  
情報はいらぬ」ということ。それより  
も子どもたちの「たね」が発芽して成  
長するための環境を整え、邪魔をしない  
よう応援していくことが、これからの環  
境教育だと思います。そのために大切だ  
と思うことを、3つだけ挙げてみました。

ナイフも  
試行錯誤を繰り返  
し思い通りに使え  
るようになる



全身を使って  
興味を  
追求する



異なるものが  
混ざる場所を創る  
|| 「豊かな土壌」

まずは、環境教育の間口を広げ、多種多様なものが混ざり合える空間にすること。遊び、アート、音楽、グルメ、ファッション、DIY、文学など、なんでもOK。異なるアイデアや考え方、価値観が混ざり合い、人と人が響き合う空間は、タネが育つ「豊かな土壌」になります。子どもはたくさんのお会いの中で育つのが一番です。

心と身体を  
ゆさぶる  
リアルな体験



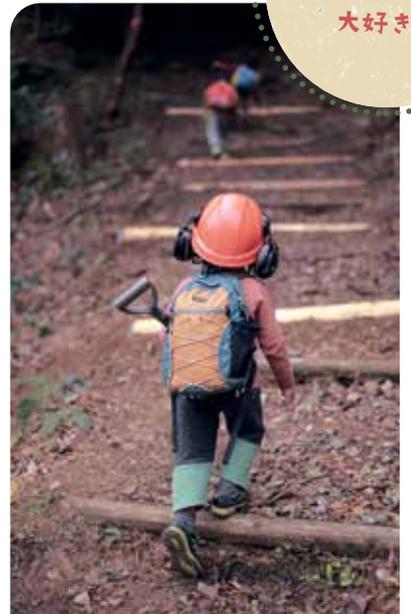
身体全体の感覚を通して  
心揺さぶられるリアルな体験と遊び

知識や情報ではなく、「楽しい!」「嬉しい!」「気持ちいい!」そんな体全体の感覚を通して、心揺さぶられるリアルな体験や遊びこそが、子どもたちが将来行動を起こす際の原動力になります。人間の行動は、アタマ(知識)ではなく心(感情)によって突き動かされるからです。IT化・バーチャル化が更に進むこれからの時代、人間としてバランスを取るためにもこうした経験は欠かせません。また、リアルな体験や遊びの中で、トライ&エラーを重ねてゼロから何かを創り出す経験は、将来、理想的な社会を創り上げる際の確かな力へとつながるでしょう。

子どもは大人の  
真似をするのが  
大好きだ

素敵な背中を見せていこう!

子どもたちは、言われたこと、教わったことよりも、周りの大人を見たり、社会の雰囲気を感じたり、体験したり発見したりしたことを吸収して身体全体で理解します。SDGsについて文字や映像で学ぶより、食べ物を育てる、家を作る、服を縫うなど、暮らしのリアルなプロセスを日々横で見ながら成長することの方がはるかに良い刺激となるでしょう。だからこそ私たち大人が、「暮らしも遊びも、楽しみながら幸せな未来を創っている」そんな背中を見せ続けることこそが、何よりも効果的な環境教育のあり方だと私ナバは確信しています。





morinosのセンターハウス



国内初の森林総合教育センター **morinos** (モリノス)

岐阜県美濃市曾代 88 番地

<https://morinos.net/>

## すべての人と森をつなぎ 森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを 次の世代に伝えていく

### morinos誕生!

2020年7月22日、岐阜県立森林文化アカデミーの敷地内に国内初の森林総合教育センター「morinos (モリノス)」が誕生しました。当日ぶらっと来て、寝転んだり、穴を掘ったり、焚火をしたり、端材で自由な工作をしたり、泥まみれで遊んだり…。子ども時代に必要な、水・土・火・風・木の要素に思う存分に触れて遊べる「morinosひろば」は大人気。

この他にも音楽、アート、健康、木工、自然体験など、多様なテーマで展開される予約型イベントも充実しています。学校団体受け入れや、指導者研修会、保育園、小中学校への森の体験の出前も展開中。そんな、森と人をつなぐ「実験場」morinosでは、次に紹介するようなアツいマインドを胸に、カオスのような現場でスタッフ一同、毎日楽しく奮闘しています。

土も水も  
子どもたちの  
成長には欠かせな  
い要素のひとつ

#### ● 学ぶではなく感じる

「森を学ぶ」のではなく、「森を感じる。森で遊ぶ」ことを大切にしています。すべての行動は知識ではなく、心や感情が原動力だと考えているからです。

#### ● 部分ではなく全体

森を断片的ではなく全体的にとらえる視点や感覚を紹介しています。プログラムの切り口も多種多様。森を見る眼鏡（視点）が増えるほど人生も楽しめるかもしれません。

#### ● とんがりワクワク実験場

「いいね」「面白そう」と思ったらまずは「やってみる」。morinosは前例を創るフロンティアであり続けたいと思っています。行政だからこそ失敗を恐れず、行政だからと言い訳もせず、子ども達をしっかりと見習ってトライ&エラーを繰り返しながら成長します。

遊び場は  
みんなで創るのが  
一番オモシロい



はだしの  
広場からつながる  
森を歩くと  
新しい発見が  
きっと見つかる



● みんなで一緒に作る

自分たちの空間は、みんなで一緒に学びながら、そして楽しみながら作るのが基本。暮らしても、社会も、そして幸せも、誰かに作ってもらおうのではなく、自分たちの手で楽しみながら作る。そんな大人たちの背中を子どもたちに見せ続けていきたいと思っています。

● 臨機応変・柔軟に変化し続ける

私たちが対象にしている森と人は、どちらも予測のつかない相手です。プログラムも作り込んだり固めたりせず、臨機応変に対応できるよう走りながら作り続けます。だから morinos 自体も永遠に未完成です。

morinosの3本柱

社会課題に対して、「行政だからこそできること」「やるべきことは何か」を真剣に考えた結果、morinosでは今、次にあげる3つのことをメインに活動しています。

● 森と人をつなぐ間口の広い実験場

より多くの森のファンを増やすため、一味違う切り口で森を楽しめる体験を紹介しています。清水建設株式会社との共同研究で「はだしの広場」も誕生！それをきっかけにみんなで作る「はだしの森づくり」も始まっています。

● 保育・教育現場の森の体験 日常化サポート

持続可能な社会をつくるには、森で遊ぶことの重要性に理解ある親の子どもだけでなく、すべての子どもたちが共通体験を持つことが重要です。そこで学校や保育園に出かけ、地域の森を発掘&整備して森の体験を日常化するお手伝いをしています。住友林業株式会社

森と人がつ  
なると持続可  
能な社会になる  
はずだ



森の体験出前カー morino de van

● 指導者の育成・交流

日々子ども達と接する保育士や先生が森の楽しさを知らないと、子ども達の森の体験の日常化は実現しません。そこで保育・教育現場の先生向けスキルアップ講座や、現場実習や交流にも力を入れています。県教育委員会の教員研修や地元の大学の保育士養成課程の合宿や実習現場提供も行っています。

以上、morinosの活動を大雑把に書いてみましたが、やはり文章で伝えるのは難しい!!まずは、身体全体で「感じ」に来てください。また、ウェブサイトに日々の様子が分かる動画がたくさんあるので、ぜひそちらをお楽しみください。

**KURKKU FIELDS** (クルックフィールズ)

千葉県木更津市矢那 2503

<https://kurkkufields.jp/>

# 人が地球にとって ポジティブな存在に なれることを伝えたい

**吉田 和哉** (よしだ かずや)

幼い頃から自然や生物が大好きで、大学では保全生態学を学ぶ。ビジネススキルを磨くために一般企業での営業経験を経て2020年10月に KURKKU FIELDS に入社。「自然の価値や魅力を伝える」ことを人生のミッションとし、現在は場内の循環の仕組みづくりや自然体験ツアーを企画運営。



旬の食材を農場で  
味わえます  
(BBQ は要予約)

クルックフィールズは農業や食、アートをテーマにしたサステナブルファーム & パーク。次世代も使い続けられる農地を目指して有機農業を行いながら、場内では農場の恵みをふんだんに使った食事が楽しめます。また、畑や森ではゆったりと過ごしながら、自然の中で過ごす楽しさ、心地よさを感じることができます。人が自然とともに生きる本質的な喜びを表現しながら、持続可能な社会の実現に向けた循環の仕組みづくりを行っています。

## 農業と食、アート

農場では有機農法でたくさん野菜を栽培しながら、牛や鶏を育てています。土地の開墾から10年以上かけて土づくりをしている畑では、毎年色とりどりの美味しい野菜を収穫。ダイニングやベーカリーでは、季節ごとに採れる農場の旬の恵みを使ったランチやパンをお召し上がりいただけます。また、貴重な水牛のミルクを使ったモッツアレッタチーズや、ブラウンスイス牛の甘みの

あるスッキリとした味わいのミルクと平飼いで育った純国産鶏のコクのある卵を使ったシフォンケーキなど、場内で大切につくった食材でこだわりの料理やスイーツを作っています。食肉を取り扱っているシャルキュトリーでは、木更津で獲れたイノシシやシカなどの肉を使ったハムやソーセージを製造。自然の恵みを余すことなくいただき、命の大切さ、ありがたみを感じてもらえるようなモノづくりを行っています。

食事が済んだ後は、場内を歩いてみてください。場内には豊かな自然環境とともに、畑や森の中にアートも点在しています。自然と融合したアートは、私たちに感動やインスピレーションを与えてくれます。

## 循環の仕組みと自然環境

私たちは牛や鶏からミルクや卵などの恵みをいただきますが、同時に副産物としてたくさん排泄物も出てきます。また、広い場内のメンテナンスでは大量の刈り草が出たり、飲食店でも野

四季を通して様々な生き物が姿を見せてくれます



自分で収穫した野菜はとびきり美味しく感じます



菜クズや食べ残しが出たりする他、トイレやキッチンではたくさんのお水も使います。糞尿や野菜クズなど、生活する上で出てくる副産物は、いやな匂いがし

たり、病原菌の温床になったり。豊かな暮らしを営む裏で、これらはネガティブなものとして「ごみ」と呼ばれますが、クルックフィルターではこれらのネガティブなものも、どうすれば『大切な資源』としてポジティブなものに変換できるのか、日々試行錯誤しています。

具体的には『エネルギー』、『土』、『水』の3つを循環させることで、循環の仕組みを作り上げています。

動物の排泄物や野菜クズ、刈り草は人間が管理することで堆肥化し、畑づくりに大切な土の素に。場内で使う水は地下から汲み上げ、使った後は浄化槽を通った後、バイオジョフィルターという仕掛けを通してから自然に還します。

排水は下水道を通してしまうと、排水に含まれる貴重な栄養素をその土地に留めることができず、また、何も処理をしないと河川を汚染し多様な生き物が棲みづらい環境に変えてしまう厄介者。しかしバイオジョフィルターによって、排水の汚れの元となる過剰な栄養

分を微生物や植物に分解、吸収してもらうことで、青々とした緑地ができ、水が浄化された後のビオトープにはオタマジャクシやヤゴ、ゲンゴロウなどたくさんのお生き物が戻ってきました。

クルックフィルターでは、私たちが暮らしを営むことで、たくさんのお動物が姿を見せてくれるようになりました。お客様の楽しみ方は人それぞれで、畑で野菜を収穫したり、美味しい食事を食べたり。遊びに来る子ども達は、春にはカエルの鳴き声を聞いたり、夏には森でクワガタムシを探したり、年間を通じて自然の移ろいを楽しんでいます。

人間が暮らすことで自然環境にネガティブな影響を与えるのではなく、人間が暮らすことでたくさんのお命で賑わう多様な環境が整う。そしてその自然環境によって私たちは支えられています。ぜひ人が自然とともに生きる本質的な喜びを感じてみてください。

竹の  
スーパーボール  
流し



篠山チルドレンズミュージアム

兵庫県丹波篠山市小田中 572

<https://www.chirumyu.jp/>

# 理解は驚きにはじまる

## 篠山チルドレンズミュージアム

垣内 敬造 (かきうち けいぞう)

篠山チルドレンズミュージアム (ちるみゅー) 館長。兵庫教育大学教授。丹波篠山市教育委員。NPO 里地里山問題研究所理事。自らのデザイン事務所を運営しながら 2000 年よりちるみゅーのボランティアに参加していたが 2012 年に突然休館、2013 年再開し館長として運営を始める。丹波篠山市生まれ。



### チルドレンズミュージアム が目指すもの

チルドレンズミュージアムは、実は世界中にあることをご存知でしたか？ 100 年以上前にアメリカで生まれたブルックリン・チルドレンズミュージアムは、芸術科学研究所の移転のため整理された所蔵品を子どもたちのための教材として再利用したと言われています。しか

### チルドレンズ ミュージアム 外観



し、それらの展示品はガラスケースに収められたお宝としてではなく、子どもたちの好奇心を呼び起こすための教材として活用されたのでした。その後、各都市へ、そして各国へと広まり、現在では世界 360 を超える都市にチルドレンズミュージアムがあるとされています。それはチルドレンズミュージアムが各地域に根ざした多様性のあるミュージアムであることも意味しています。

兵庫県の山間の小さな町・丹波篠山にあり、廃校になった中学校の木造校舎を再利用した篠山チルドレンズミュージアム(愛称:ちるみゅー)もその一つに過ぎませんが、地域に根ざすという意味ではたった一つのミュージアムであると言えます。ちるみゅー設立時には「子どもたちの創造性と生きる力を育むため」として、4つのテーマ「食と農」「仕事と職業」「自然と科学」「心

### ひみつ基地



とからだ」が設けられました。これらは地域資源を活かすことを前提としており、子どもたちの育成はもちろん住民参加による地域創造の拠点となることも目指しています。

### ハンズオン展示と ワークショップ

現代のミュージアムでは当たり前的手法と言える「ハンズオン展示」(触って体験できる展示)や、「ワークショップ」(体験を通して協働で課題に取り組む学習)ですが、チルドレンズミュージアムはその草分け的



かまど

竹のビー玉  
スライダー



ひみつ  
ボックス



な存在でした。ちるみゅーも20年前の設立時から主眼としていて、現在も大切にしています。

ちるみゅーの展示物のほとんどがハンズオン展示、というよりは遊び道具となっていて、遊びを通して「わくわくドキドキ」を感じると共に人間関係も学ぶように考えられています。例えば「ひみつボックス」という展示コーナーには、タイトルだけで中身が見えないおもちゃ箱が多数置いてあり、子どもたちはどれでも借りて遊ぶことができるのですが、勝手に持ち出すことはできず、スタッフに声をかける必要があります。スタッフはその子の発達段階を考えながらおもちやの遊び方を説明するなど、大人と子どもがコミュニケーションをとる機会を作っています。ボックスの中には市販の知育玩具なども入っていますが、スタッフの手作りのものや、地域のボランティアさんたちが手作りした木工作品・手芸作品などが入っていて、住民参加の機会にもなっています。

ワークショップは、最も大切にしている子どもと接する機会です。先の4つのテーマに沿って、ちるみゅーを取り巻く自然環境や、地域文化などの教育資源を活かして企画します。例えば竹を使った工作では、施設に隣接する里山の竹を切るところからはじめ、植生や

ときには竹害など生物多様性の課題に思いを馳せたりします。地元特産品を使ったお料理のワークショップも実施しますが、ガスではなく昔ながらのかまどや薪のオーブン窯などを使用します。かまどで火吹竹を吹く体験などは一緒に参加する保護者世代にとっても珍しい体験であり、親子での思い出として残るようです。ワークショップを主催する大人はファシリテーター(子どもたちの伴走者)という立場を重視し、先生やリーダーとして子どもたちより上位に立たないように気をつけます(といっても、危険は避けるように促しますが)。上位に立つて答えを教えることは簡単ですが、子ども

もたちが自ら気づくことを大切にしたいと考えるからです。気づくことの方が身につつき、学びの効果が高いことは明らかです。

### 生きる力と 持続可能な発展

”理解は驚きにはじまる“は、ちるみゅーをプロデュースした目黒実さんが著した書籍『学校がチルドレンズミュージアムに生まれ変わる』の帯に記された言葉です。子どもたちが遊ぶ体験(＝ハンズオン展示やワークショップ)を通して驚き、興味を持ち、他人と協働して主体的に学んだことは深い理解を得て生涯忘れることがないものになります。それはつまり生きる力につながります。丹波篠山も日本の多くの地方と同様に過疎化・少子化という課題を抱えています。未来に向かってそんな子どもたちを地域の大人が育てることはいずれ地域への報酬となり、地域の持続可能な発展につながると考えて、ちるみゅーを運営しています。



三富今昔村の玄関口となる「くぬぎの森交流プラザ」



三富今昔村 (運営：石坂産業株式会社)

埼玉県入間郡三芳町上富1589-2

<https://santome-community.com/>

## 自然と資源の循環を 遊びながら学べる 三富今昔村

島 麻希子 (しま まきこ)

くぬぎの森環境塾の専任講師。「三富今昔村」を生きた教材として利用し、「体験型」環境教育プログラムを国際規格29993に基づきデザインしています。三芳町や地元農家と連携した農業体験のコーディネータ、社会科見学や課外授業、研修で受け入れた学校・企業・団体の講師を務めています。



### 「三富今昔村」は 自然・社会体験の サステナブル・フィールド

「三富今昔村」は、東京ドーム約4個分の面積で、埼玉県の三芳町、川越市、所沢市にまたがり都心から1時間以内の距離にあります。マイクロ・ツーリズムとしては、最適な場所と言えるでしょう。30年前の江戸時代から続く「三富新田」の里山を保全再生し、2016年に「三富今昔村」として一般開放した体験型施設になりました。昨年度はコロナ禍にも関わらず、50,000名を超える人々が来村されました。オープンしてからサーキュラーエコノミーに取り組む先進施設として、世界30カ国から見学に訪れています。ランドマークの「くぬぎの森交流プラザ」は、地域で代々受け継がれてきた養蚕農家の建物を復元し、昔ながらの宮造り工法で建てられました。三富今昔村のセンター機能のほか、地域住民の憩い癒しの広場、四季の旬のイベント会

場、講演・展示会の場所として、幼児から高齢者まで多世代が幅広く利用しています。

落ち葉を堆肥にした江戸時代からの伝統農法を継承し、有機JASやG・GAPの認証を受けたオーガニック野菜を栽培するファームがあります。収穫した野菜を洗い、そのままバーベキューで味わう、地産地消型の食農体験(ベジタブル・スクール)ができます。夏場は星空を眺めそよ風を感じるアウトドアナイトで幻想的な里山空間を堪能し、冬場は野外のサークルファイヤーで暖をとりながら焼き芋を頬張る体験もできます。

令和時代に、生活シーンに里山を取り入れるライフスタイルが定着してきました。お洒落なランチを優雅に楽しむ女性の姿や、祖父母と両親と子どもが三世代で手をつなぐ風景、ベビーカーを囲みながら井戸端会議をするママ友等等など：三富今昔村内では微笑ましい風情やSNS映えする光景が、四季に渡り至るところで見受けられています。



## 遊び・学びを演出する 専門スタッフとアクティビティ

最近では、親子で身近に遊べる自然が減少しています。自然を駆け巡り草原の息吹を感じ、小鳥や虫の音を聴く機会が、スマホ等の普及により遠のいています。

このような社会現象の中で、里山では輪投げやツリーハウス、アスレチック、やまゆり鉄道（ミニSL）など自然の中で遊び・学べる環境を創ると共に、失われつつある日本の伝統行事のひな祭り、端午の節句、七夕の節句、餅つきなどイベントを企画し、リアル体験の場を提供しています。楽しさや感動を演出するために、スタッフは他の施設をベンチマーク型で視察研修し、専門力を高めています。

また、2013年には、埼玉県から環境教育等促進法に基づく「体験の機会

場」の認定を取得しました。地元の小・中学校を社会科見学や課外授業で受入れ、郷土愛を育んでいます。大学生には、学生と社会人向けの架け橋としての講座、フィールドワークやホスピタリティのプログラムを開講しています。

最大の特色は、「自然の循環を学ぶ里山」のほかに、「解体された家屋の資源循環について学ぶ」リサイクル施設があることです。見学者専用の通路を設け、安全で安心して学べる環境を整えています。子供は、大型の搬入車両や重機の動く働く車に興味を寄せ、ワイワイと楽しみながら3Rを学んでいます。大人は、社員が生き生きと働く姿（ウェルビーイング）や笑顔の挨拶に接し、社



小学校社会科見学授業の受け入れの様子

員の品格やホスピタリティに驚いているようです。AI搭載の選別ロボット等の見学を通し、多くの人々に「循環をデザインする」石坂産業の価値に共感してもらっています。今や企業・団体様のガイドツアーは、三富今昔村の二つの風物詩と言えるでしょう。

今後は、体験農園RedAICH Iが5月にオープンするほか、夏にはオーガニック野菜を使用したこだわりの和食メニューを提供するSatoyama Café「MEGURU」もオープン予定です。ぜひ一度遊びに来てみてください。（三富今昔村への大人の方の入場は有料、工場見学は予約制です。ご来場の前にはウェブサイトをご確認ください。）



くぬぎの森散策路の様子